

ICT を活用した新規就農者の イチゴ栽培技術の習得支援

高島農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

B氏は農業大学卒業後、平成30年3月からハウスで少量土壌培地耕によるイチゴ栽培を始めました。令和元年12月～令和2年5月収穫となる2作目は、ハウス1棟を自主施工され、それによる増棟分の苗も確保することができ、9月中にすべての苗を定植することができました。定植後の生育は順調に進み、年内から収穫を始めることができました。しかし、株の生育が順調に進んだために、厳寒期の換気不足によりCO₂濃度が不足気味となり、生育が一時的に抑制され、2～3月頃の出荷量が伸び悩みました。

今作は、さらにもう一棟ハウスを増棟されるにあたって、面積拡大に見合った苗数を確保するために育苗技術の支援を行いました。また、本ぽハウス内の厳寒期の換気のタイミングの改善支援を行いました。



写真 ミスト灌水により生育旺盛な苗

【普及活動の内容】

9月の本ぽハウス定植に必要な苗数を確保するために、ICTを活用したミスト灌水により育苗ハウス内の昇温を抑制し、夏季高温期でも確実に良質な苗が確保できるように支援しました。

また、本ぽハウスへの定植後は、ICTを活用してCO₂濃度をモニタリングし、CO₂濃度が下がるタイミングを確認しました。

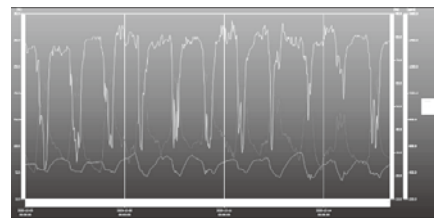


図 ハウス内環境のモニタリング

【普及活動の成果】

今作は7月の長雨と8月の猛暑によりランナーの出が非常に悪く、良質な苗数の確保が困難でしたが、ミスト灌水による昇温抑制により9月中にすべてのハウスで定植を完了することができました。しかし、本ぽハウスへの定植直後から炭そ病が発症し、定植株の約15%を処分しました。そこで迅速に対策支援を行い、炭そ病を発症していない株は現在順調に生育しています。12月頃からはCO₂濃度のモニタリングにより、適切なタイミングで換気をすることができて生育は非常に順調に進み、11月から収穫を始めることができました。

今後は、さらなる生育の促進ができるよう管理支援を行うとともに、来作の苗で炭そ病が発生しないよう、予防対策の支援を行っていきます。

◎対象者の意見

ミスト灌水、CO₂モニタリングともに非常に実用的で栽培管理の改善の手助けになった。また、炭そ病が発症したが、適切な対処法を教えていただき、何とかここまで回復することができた。引き続き支援をお願いしたい（生産者）。